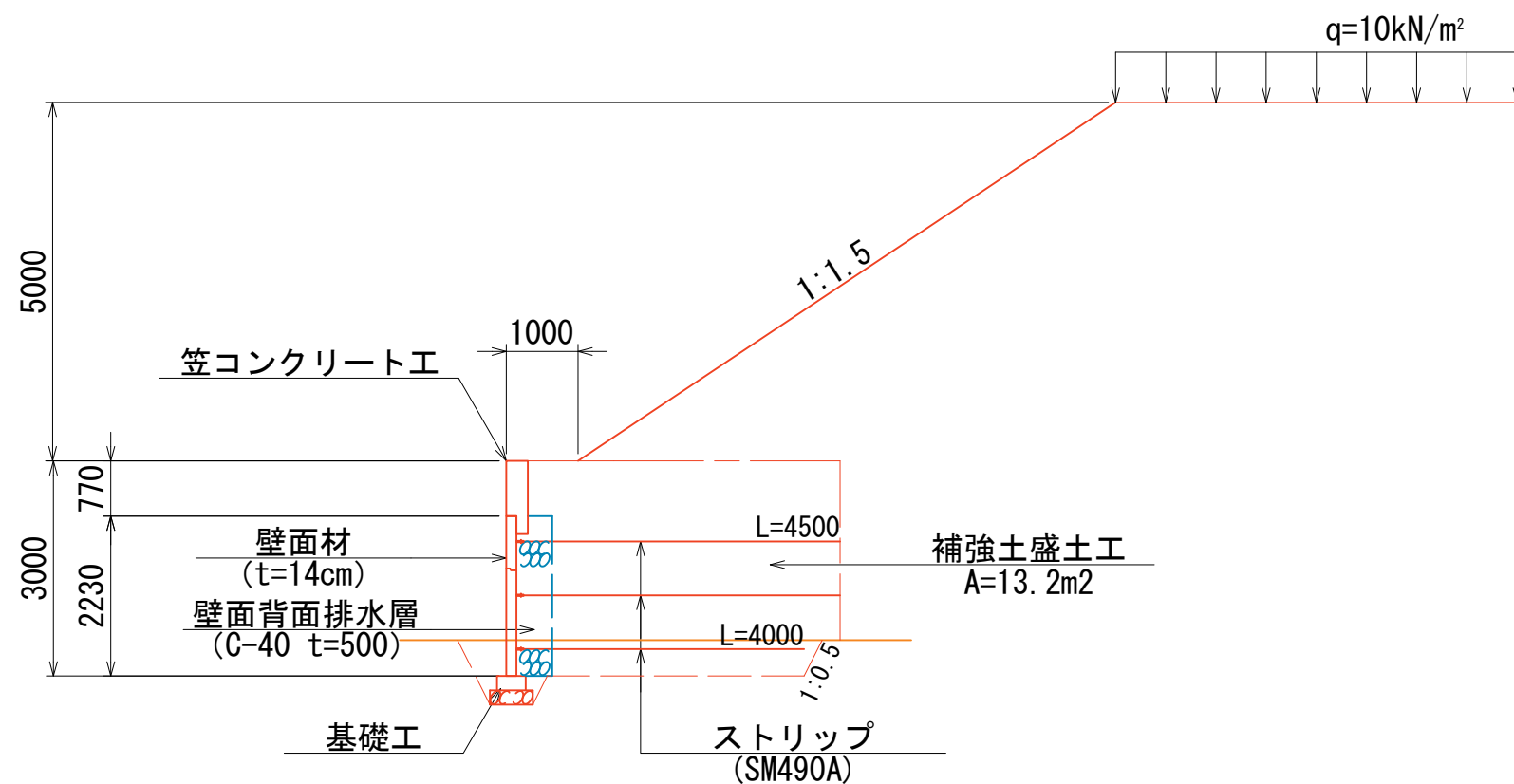


# テールアルメ工 【土羽 H=3.0m】

## 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=3.00m (h=2.23m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

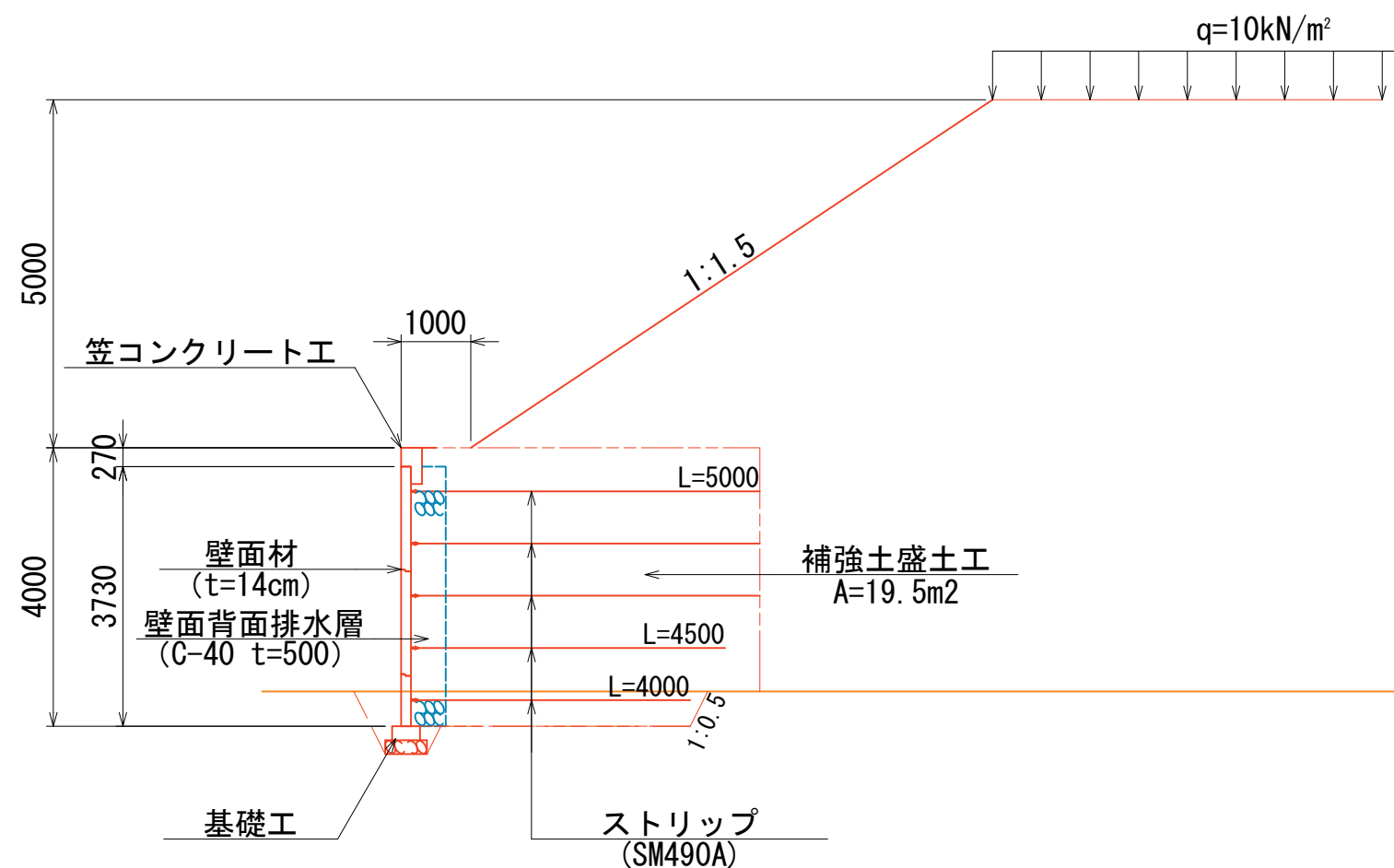


## テールアルメ工 【土羽 H=4.0m】

### 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=4.00m (h=3.73m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数 $C_z$	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	$kh=0.15$
	外的安定検討	$kh=0.11$ （補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	$kh=0.10$
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \cong 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

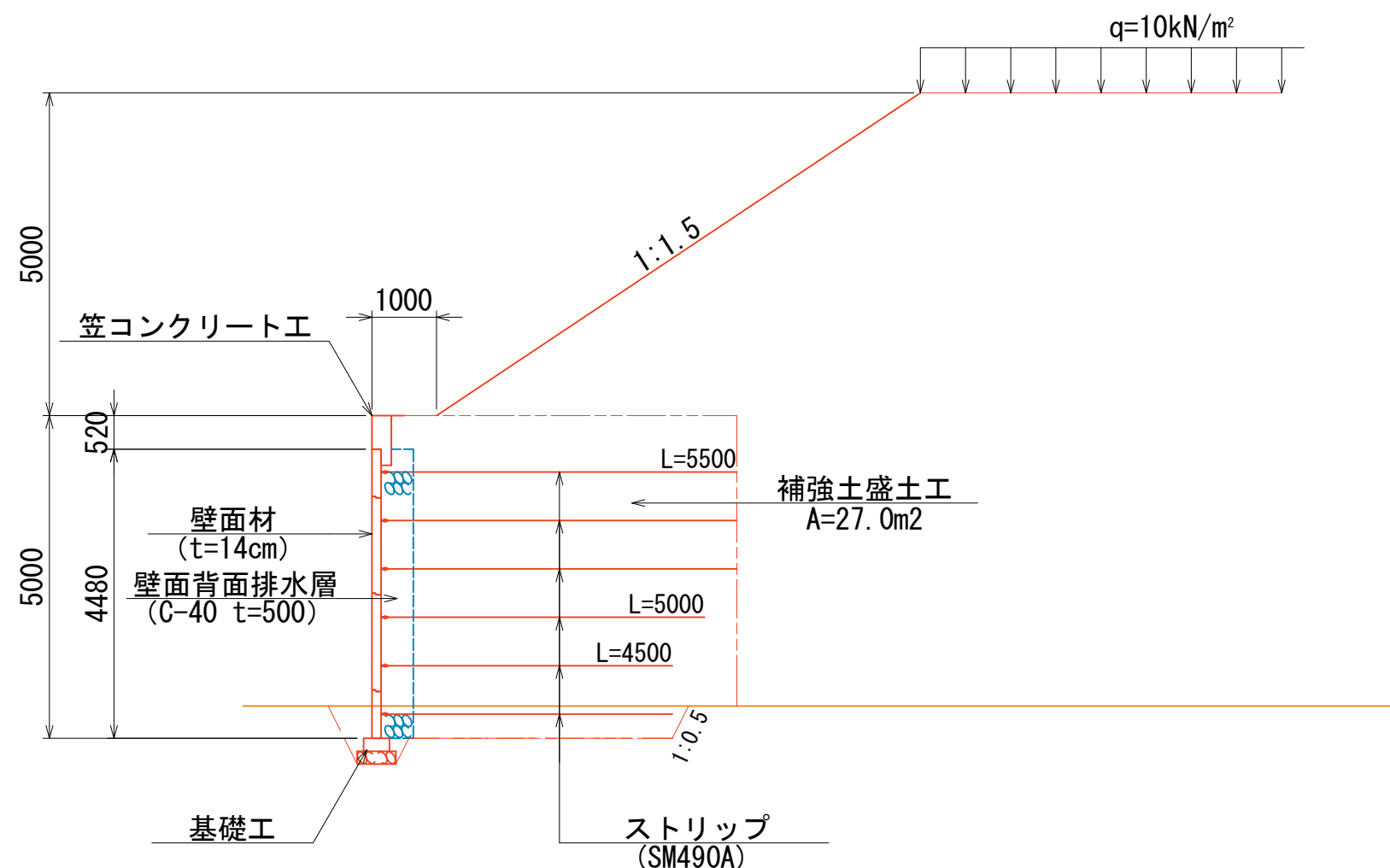


## テールアルメ工 【土羽 H=5.0m】

### 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=5.00m (h=4.48m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \cong 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

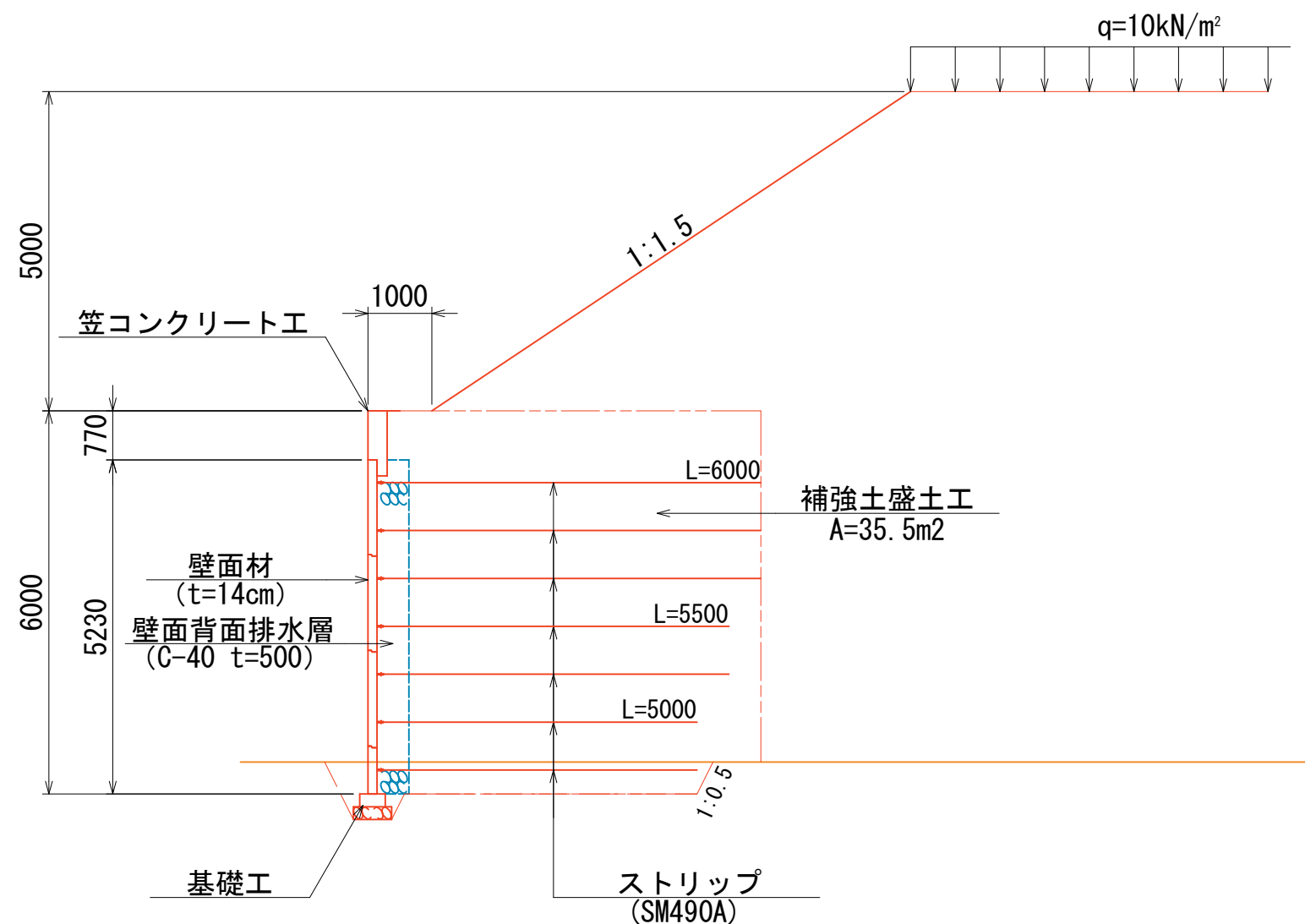


## テールアルメ工 【土羽 H=6.0m】

### 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=6.00m (h=5.23m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

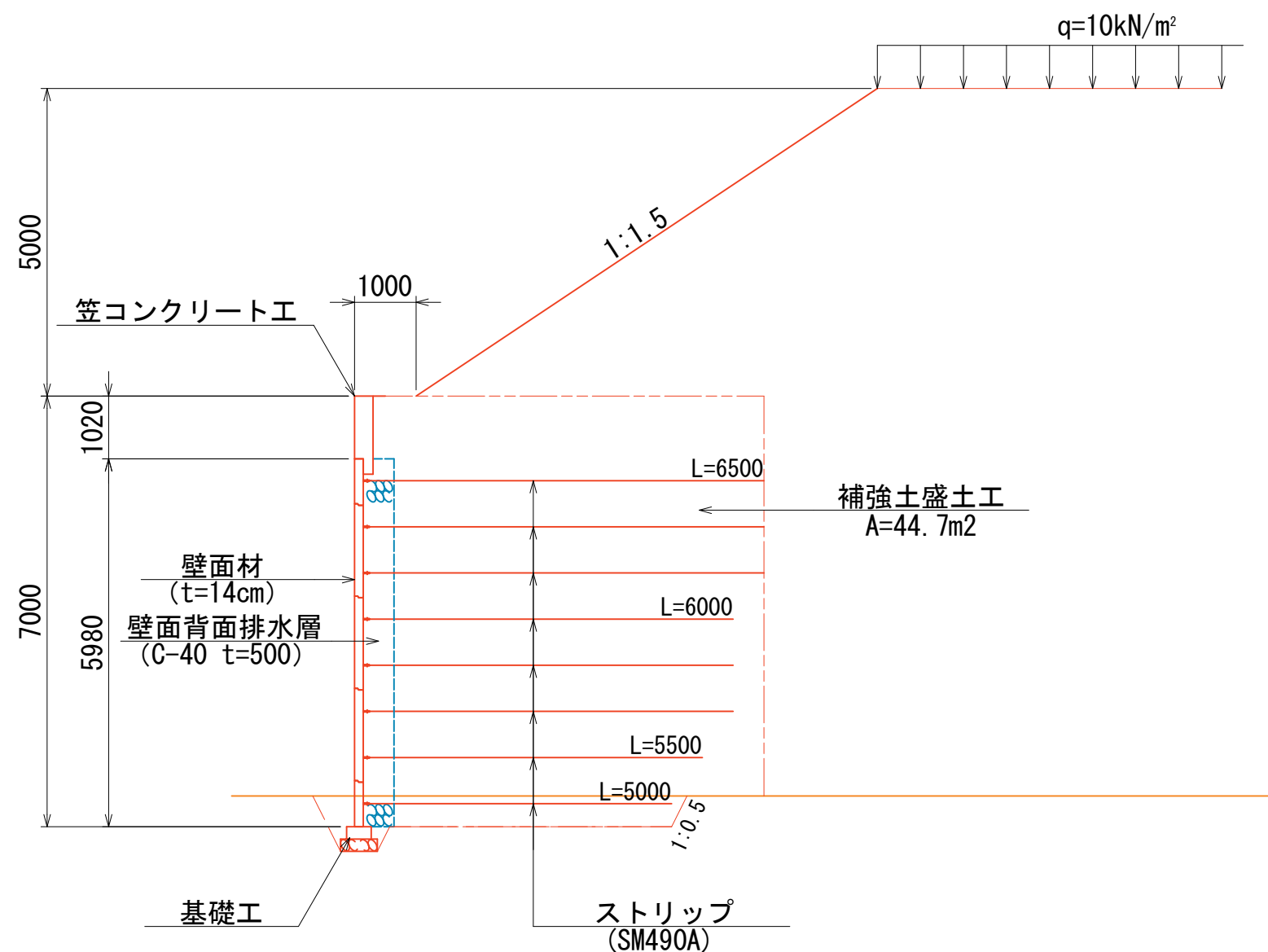


## テールアルメ工 【土羽 H=7.0m】

### 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=7.00m (h=5.98m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

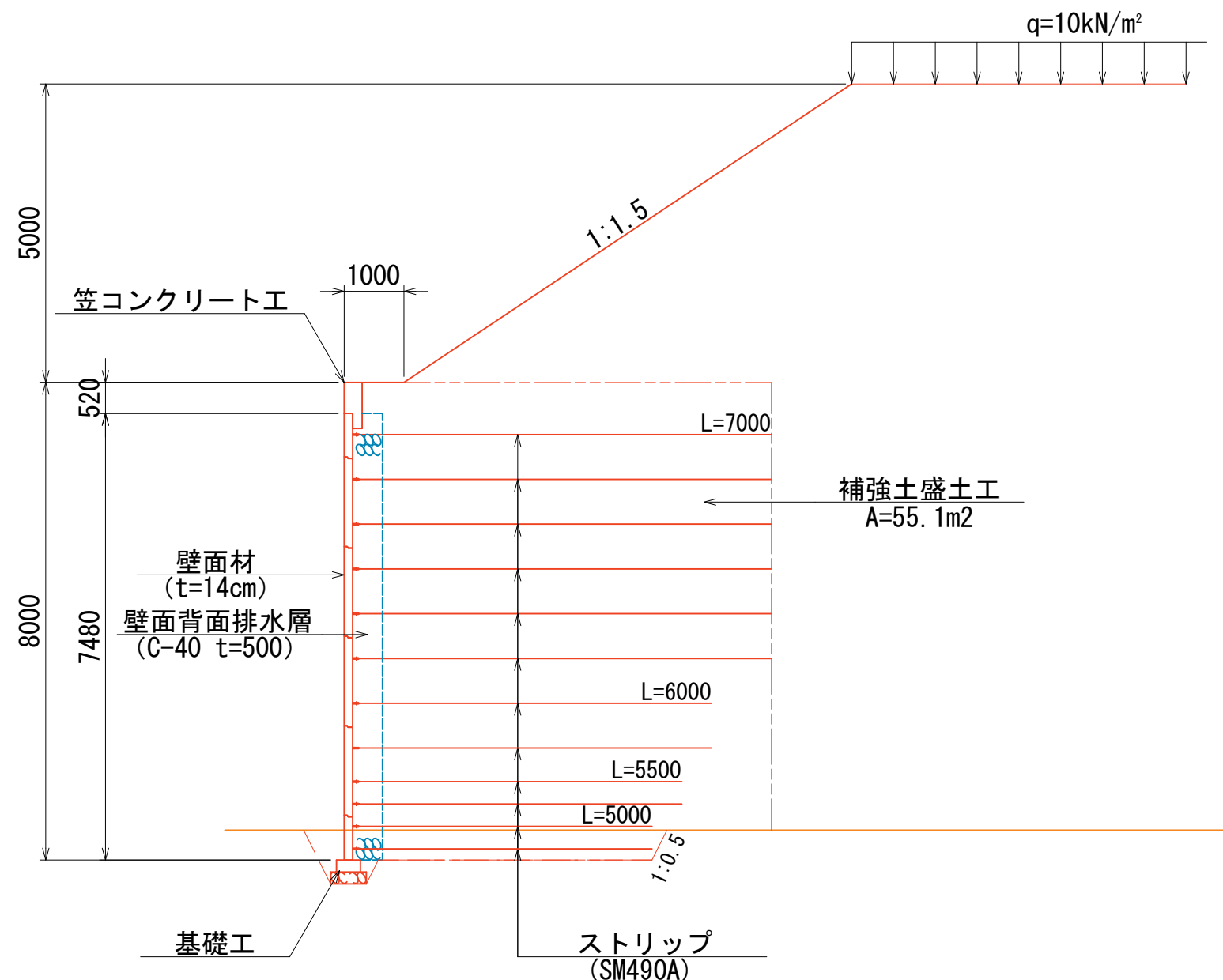


# テールアルメ工 【土羽 H=8.0m】

## 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=8.00m (h=7.48m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \cong 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

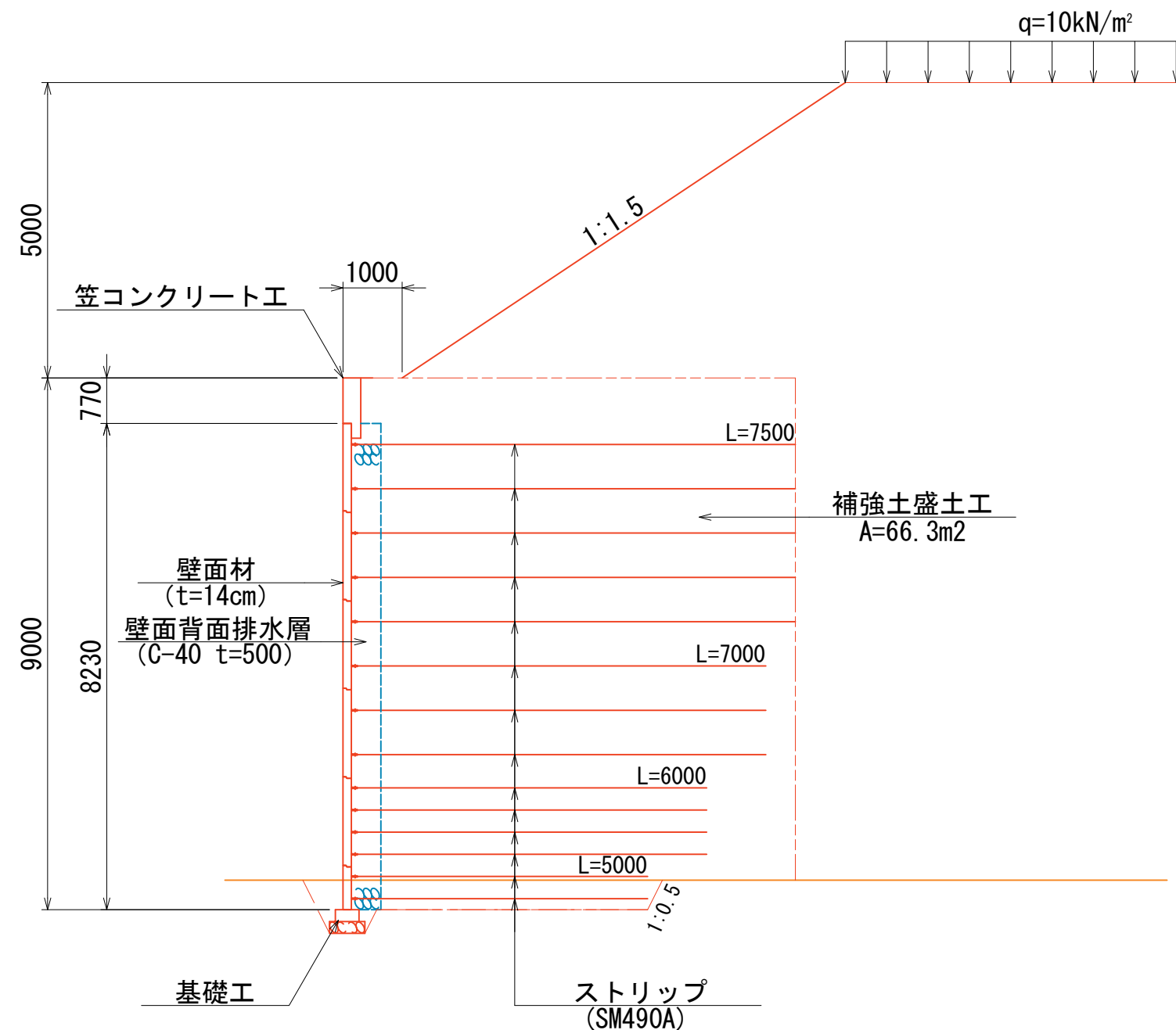


## テールアルメ工 【土羽 H=9.0m】

### 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=9.00m (h=8.23m)	
盛土材 土質条件	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

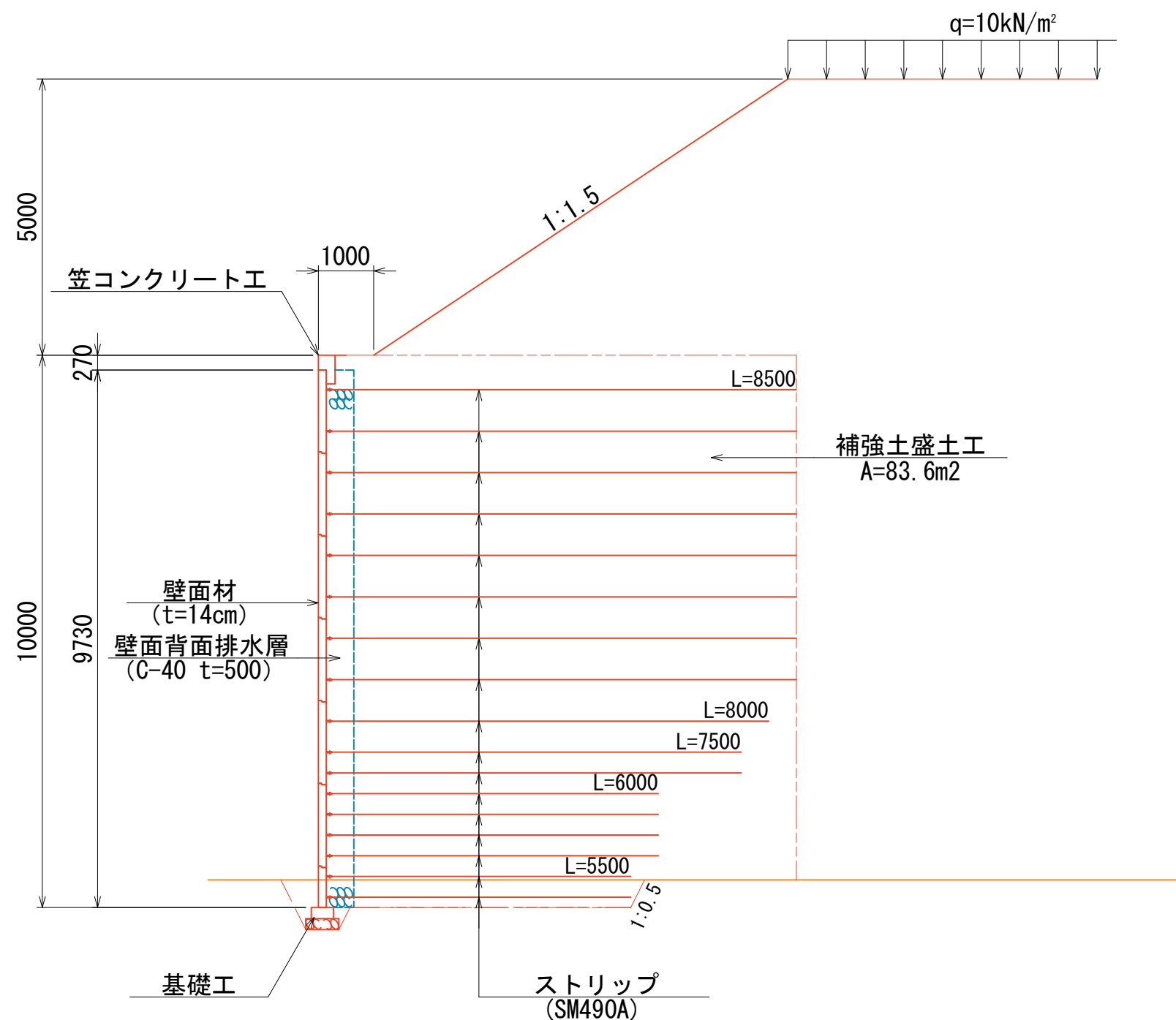


# テールアルメ工 【土羽 H=10.0m】

## 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=10.00m (h=9.73m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜きに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より



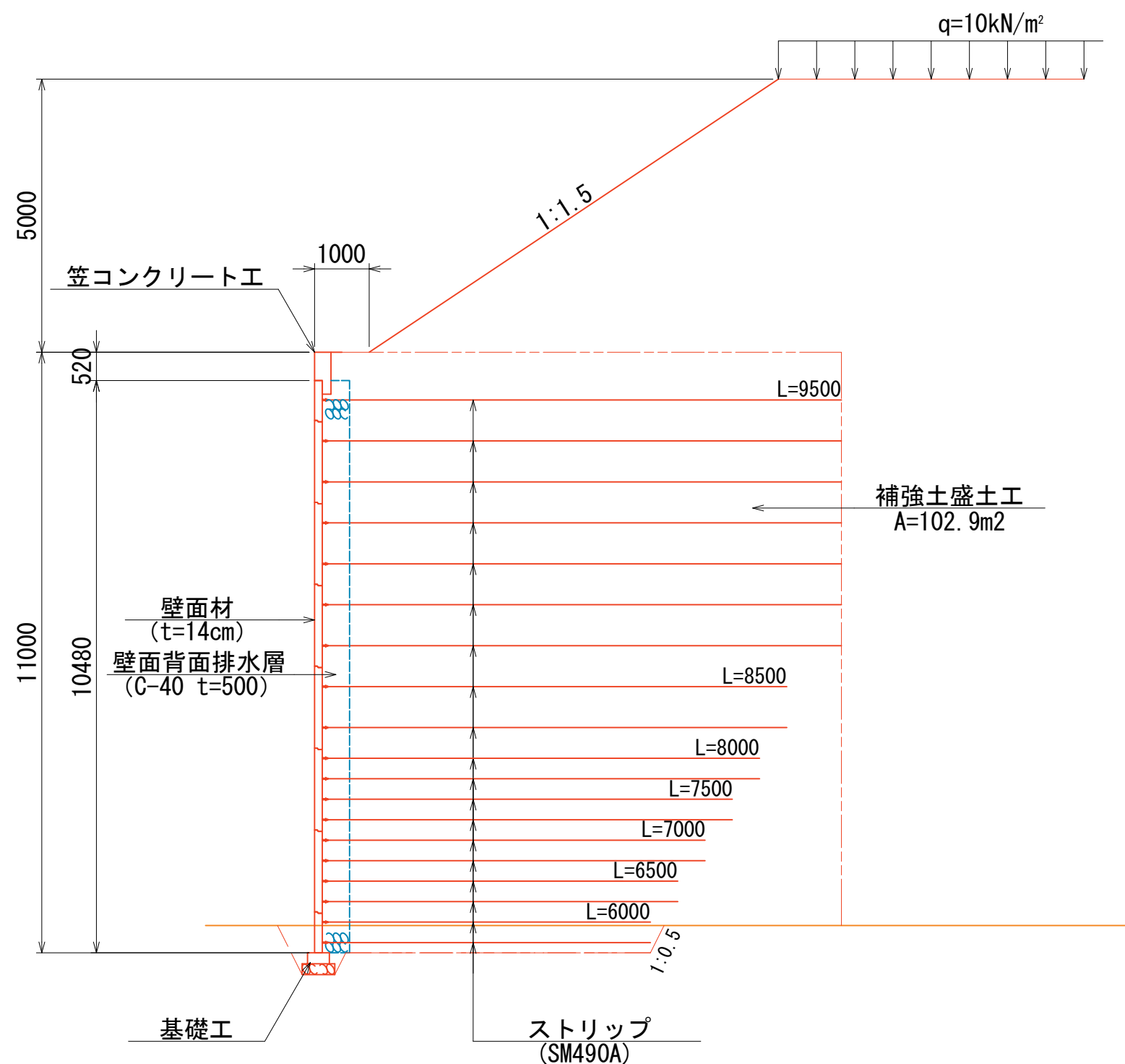


# テールアルメ工 【土羽 H=11.0m】

## 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=11.00m (h=10.48m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

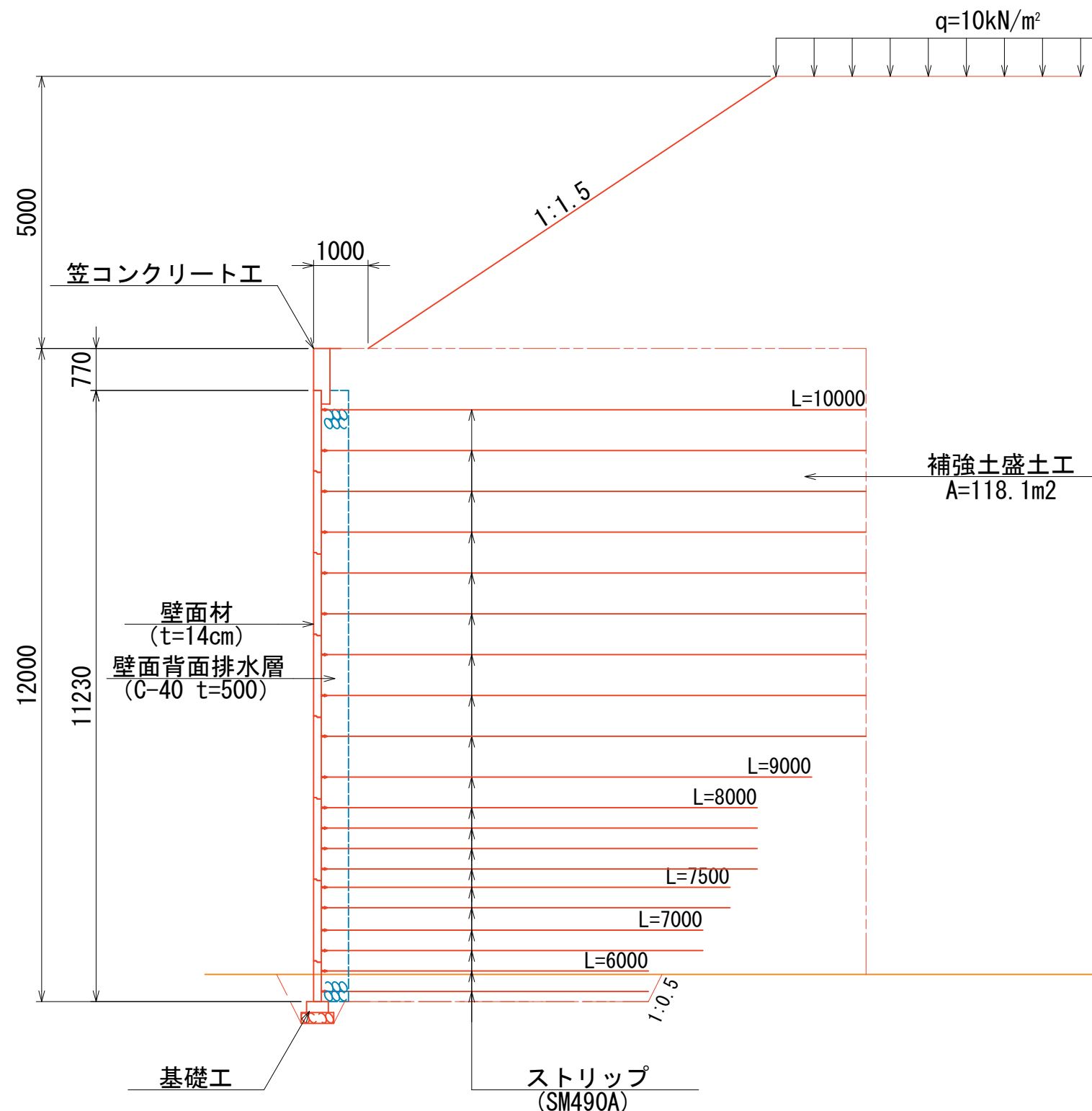


# テールアルメ工 【土羽 H=12.0m】

## 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=12.00m (h=11.23m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

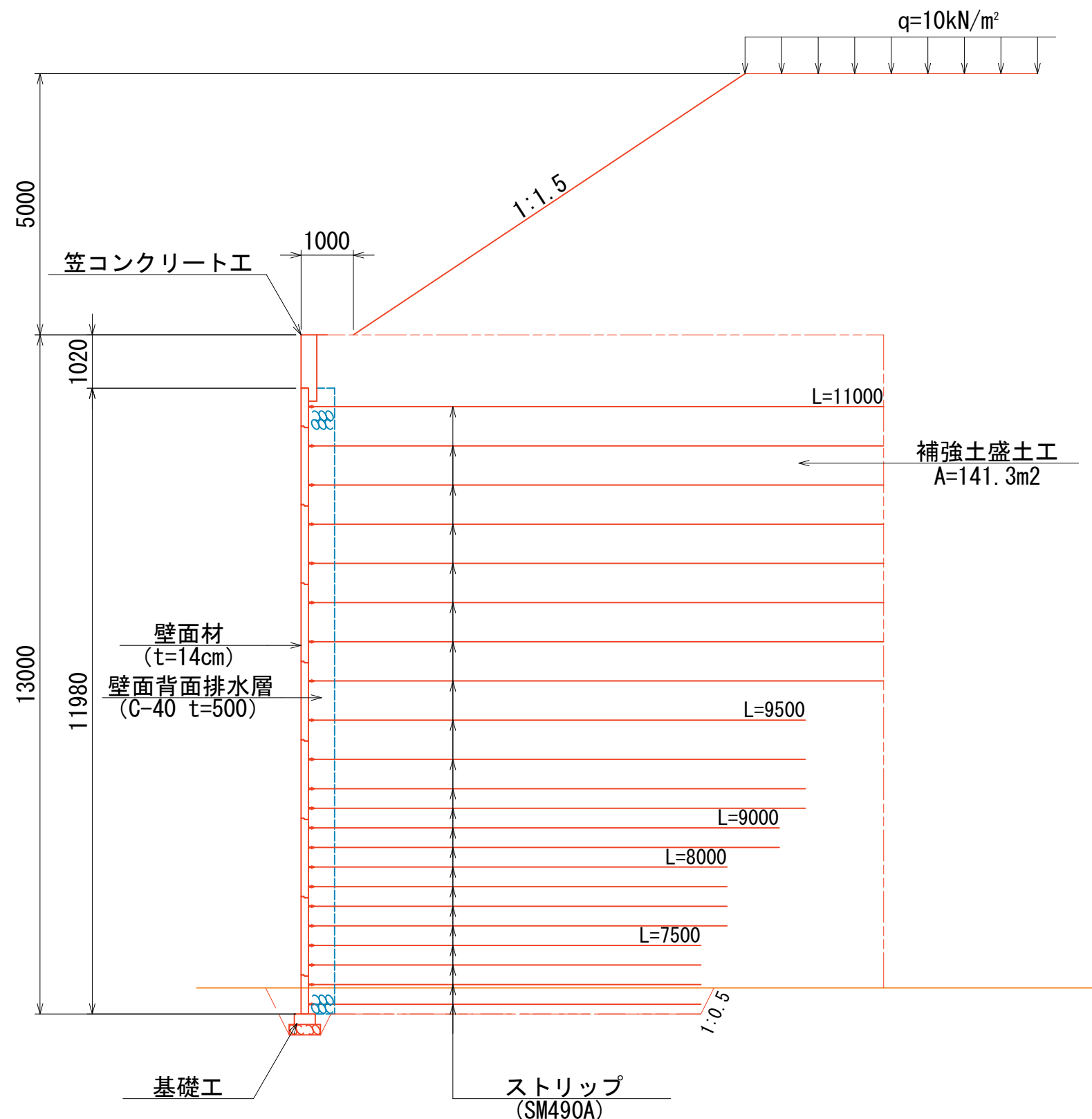


# テールアルメ工 【土羽 H=13.0m】

## 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=13.00m (h=11.98m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

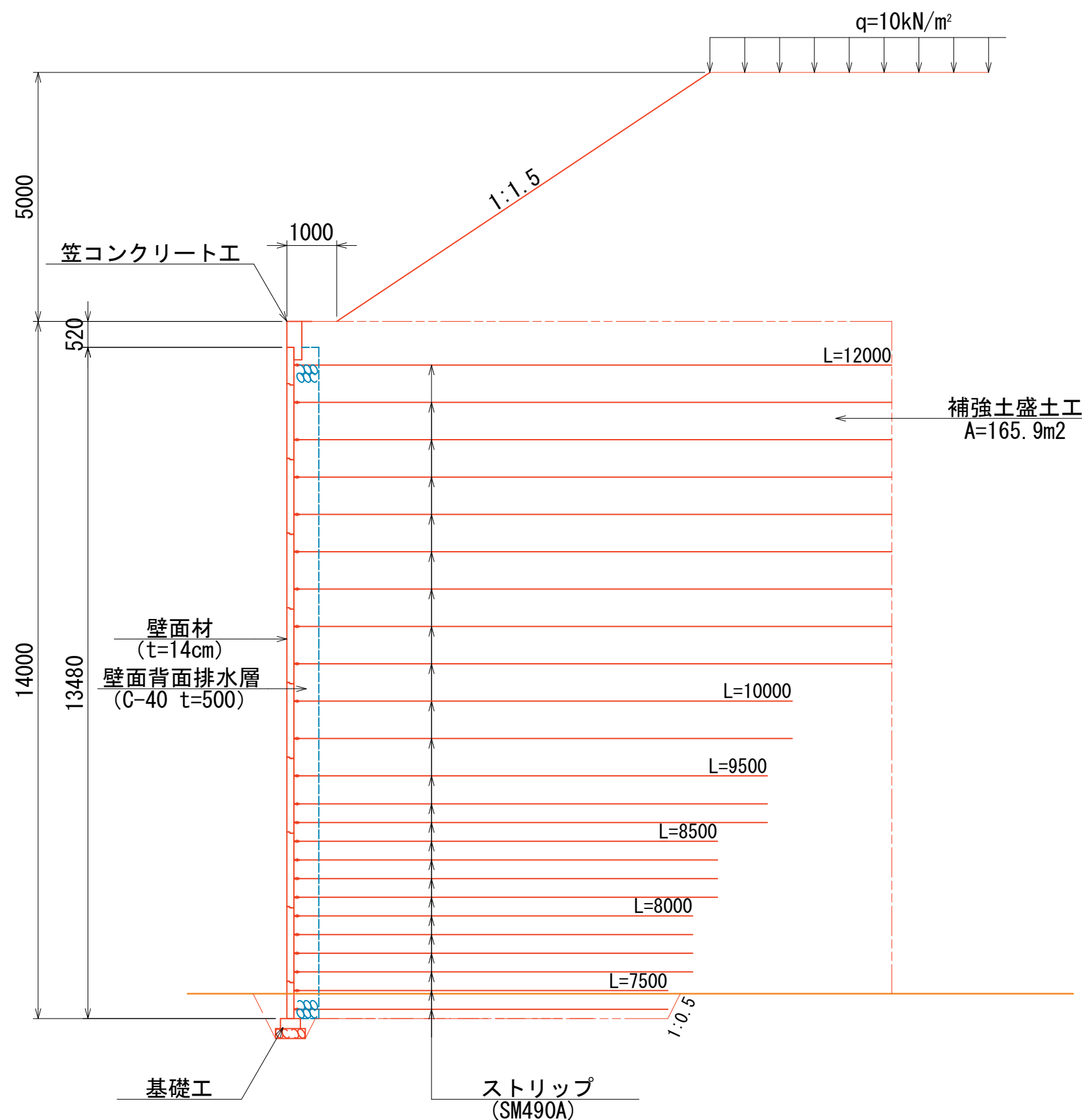


# テールアルメ工 【土羽 H=14.0m】

## 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=14.00m (h=13.48m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より



# テールアルメ工 【土羽 H=15.0m】

## 設計条件（形状・応力等）

設計壁高	H=15.00m (h=14.23m)	
盛土材	土砂	内的・外的安定検討時 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=0\text{kN/m}^2$
土質条件	砂質土	全体安定検討時 ※1 $\gamma=19\text{kN/m}^3, \phi=30^\circ, C=10\text{kN/m}^2$
地震動の影響	重要度区分	重要度2
	地震動の作用	レベル1地震動（Ⅱ種地盤）
	地域別補正係数Cz	1.00（地域区分：A）
設計水平震度	内的安定検討	kh=0.15
	外的安定検討	kh=0.11（補正係数 $\nu=0.7$ ）
	全体安定検討	kh=0.10
盛土材と補強材の摩擦係数	$f \approx 1.5 \sim \tan 36^\circ$	
コンクリートスキンの設計基準強度	$\sigma_{ck}=35\text{N/mm}^2$	
安全率及び許容応力度	常時	地震時
補強材の引抜けに対する安全率	2.0	1.2
補強材の引張応力度 (SM490A)	185N/mm <sup>2</sup>	277.5N/mm <sup>2</sup>
ボルトのせん断応力度 (8.8)	200N/mm <sup>2</sup>	300N/mm <sup>2</sup>

※1：補強土（テールアルメ）壁 マニュアル 4.3土・地盤の設計諸定数より

